

ライフイノベーション（病態機構）学位プログラム（博士後期課程）  
 Doctoral Program in Life Science Innovation (Disease Mechanism)

授与する学位の名称	博士(病態機構学) [Doctor of Philosophy in Disease Mechanism]	
人材養成目的	分野横断的かつ俯瞰的な考え方を修得し、世界トップクラスの高度で専門的研究能力を身に付け、バイオリソースを用いてライフサイエンス研究の新たな展開を切り開き、革新的医薬品・機能性食品の研究開発分野及びその保全と管理の分野で、国際的に評価の高い研究成果を創出し、グローバルに活躍する高度専門職業人または研究者を養成する。	
養成する人材像	博士後期課程では、博士前期課程で修得した知識や技術を用いて、「研究マネジメントを高めつつ、難治性疾患の革新的な治療につながるような国際的に評価の高い独創的な研究を行い、得られた研究成果を国際的に情報発信し、生命医科学分野において即戦力とされる研究者および高度専門職業人」を育成する。	
修了後の進路	生命医科学的知識、実験技術、研究マネジメントスキル、国際レベルの高い研究成果を基盤として、「課題解決能力」と「課題発見能力」を駆使し、難治性疾患の革新的な治療法の開発を目指す人材として、ライフサイエンス系、製薬系企業の研究者、独立行政法人研究所の研究員、コンサルタント、治験コーディネーター、イノベーションを創出する新業種の起業家、関連する官公庁職員として国際的に活躍する事が期待される。研究のグローバル化に伴い、海外との共同研究やコーディネートをやる機会が今後さらに増加すると考えられ、博士課程修了者の需要は高まると考えられる。	
ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力	評価の観点	対応する主な学修
1. 知の創成力: 未来の社会に貢献し得る新たな知を創成する能力	① 新たな知の創成といえる研究成果等があるか ② 人類社会の未来に資する知を創成することが期待できるか	博士後期ライフイノベーションセミナー、博士後期インターンシップ、ライフイノベーション博士後期研究Ⅰ春、博士論文作成、学会発表
2. マネジメント能力: 俯瞰的な視野から課題を発見し解決のための方策を計画し実行する能力	① 重要な課題に対して長期的な計画を立て、的確に実行することができるか ② 専門分野以外においても課題を発見し、俯瞰的な視野から解決する能力はあるか	博士後期インターンシップ、ライフイノベーション博士後期研究Ⅰ春、達成度評価、博士論文作成
3. コミュニケーション能力: 学術的成果の本質を積極的かつ分かりやすく伝える能力	① 異分野の研究者や研究者以外の人に対して、研究内容や専門知識の本質を分かりやすく論理的に説明することができるか ② 専門分野の研究者等に自分の研究成果を積極的に伝えるときに、質問に的確に答えることができるか	博士後期ライフイノベーションセミナー、ライフイノベーション博士後期演習Ⅰ春、ライフイノベーション博士後期研究Ⅰ春、学会発表、中間発表会
4. リーダーシップ力: リーダーシップを発揮して目的を達成する能力	① 魅力的かつ説得力のある目標を設定することができるか ② 目標を実現するための体制を構築し、リーダーとして目的を達成する能力はあるか	博士後期インターンシップ、ライフイノベーション博士後期研究Ⅰ春
5. 国際性: 国際的に活動し国際社会に貢献する高い意識と意欲	① 国際社会への貢献や国際的な活動に対する高い意識と意欲があるか ② 国際的な情報収集や行動に十分な語学力を有するか	博士後期ライフイノベーションセミナー、ライフイノベーション博士後期研究Ⅰ春、中間発表会、国際会議発表、学術論文発表
6. イノベーション力: ライフサイエンス分野におけるイノベーションを実現する能力	① ライフサイエンス分野における新たな知を創出し、社会に還元する意識と意欲があるか ② ライフサイエンス分野におけるイノベーションの創出に繋がる理論や実践に関する研究手法および論理展開力を修得したか ③ 病態機構学における顕在化していない課題を発見し、解決できたか ④ 分野外の研究者と協働して、分野横断的な研究課題を発見・解決する意欲があるか	人を対象とした研究: 基盤編、博士後期ライフイノベーションセミナー、博士後期インターンシップ、博士論文作成、学会発表、セミナーへの参加、国際会議発表、学術論文発表
7. 専門知識: 専門分野における最先端知識	① 病態機構学に関する最先端の専門知識を修得したか ② 修得した専門知識に基づき未解決課題を解決するための研究計画を立案できたか	ライフイノベーション博士後期演習Ⅰ春、ライフイノベーション博士後期研究Ⅰ春、博士論文作成、セミナーへの参加、学術論文発表
8. 高度英語実践力: 国際社会において研究に関わるあらゆる活動を行うのに十分な英語の運用能力	① 英語による研究成果の報告や発信に際し、国際社会にインパクトを与えられる発表能力を有しているか ② 第一線級の研究者と対等に議論できるだけの英語力および知識を有しているか	博士後期ライフイノベーションセミナー、ライフイノベーション博士後期演習Ⅰ春、ライフイノベーション博士後期研究Ⅰ春、達成度評価、中間発表会、国際会議発表、学術論文発表

学位論文に係る評価の基準	
<p>【学位論文が満たすべき水準】学位論文の内容が、申請者が主体的に実施し、病態機構分野の発展に貢献する、新奇かつ国際的に高い評価を得られる研究成果であること。学位論文が、英語で論理的かつ科学的に書かれており、題目、要約、総合背景、各章(背景および目的、研究方法、結果、考察および結論)、総合考察、謝辞、文献の順に構成され、学位論文として適切な形式であること。</p> <p>【審査委員の体制(専門委員会の体制)】主査1名、副査3名以上で構成する専門委員会により審査を実施する。主査は、申請者の主指導教員を除くプログラム研究指導担当を受けた教員とし、副査3名以上のうち、プログラム研究指導担当認定を受けた教員を2名以上含むものとする。専門委員会4名以上のうち、学内と学外のプログラム担当教員をそれぞれ1名以上含むものとし、学内外の教員が協働して学位審査を実施する体制を敷く。また、専門委員会4名以上のうち、プログラム担当以外の者を1名に限り含むことができる。</p> <p>【審査方法及び項目等】申請者に学位論文の内容について説明を求め、それに対する専門委員会委員による質疑応答を実施する。最終試験のうち、論文内容の発表と質疑応答を公開で行う。その際、学位論文の内容に関する発表を英語で論理的かつ科学的に実施し、審査員の質疑に対して、最新の研究動向を含めて、病態機構分野の高度な専門的知識ならびに洞察力を持って回答し、審査員を十分理解させることができたか審査する。</p>	
カリキュラム・ポリシー	
<p>病態機構領域におけるイノベーション創出のための未解決課題を発見し、それを解決するための研究活動を行う。イノベーション創出のためには、専門分野外の研究者と協働して、全く異なる分野における研究課題や分野横断的な研究課題に取り組む高い意識と意欲が必要であり、インターンシップ科目を編成する。分野横断的かつ俯瞰的な考え方を修得し、世界トップクラスの高度で専門的研究能力を養成するために、海外の研究機関に所属する第一線級の研究者によるセミナーを編成する。</p>	
教育課程の編成方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病態機構領域の教育課程は、専門科目、本学位プログラム6領域(病態機構領域、創薬開発領域、食料革新領域、環境制御領域、生物情報領域、生体材料領)共通の基礎科目、および大学院共通科目で構成される。専門科目では、病態機構に関する研究指導を受ける。</li> <li>・博士論文作成、学会発表等により、知の創成力を身に付ける。</li> <li>・「博士後期インターンシップ」等により、マネジメント能力を身に付ける。</li> <li>・「博士後期ライフイノベーションセミナー」等により、コミュニケーション能力を身に付ける。</li> <li>・「ライフイノベーション博士後期研究」により、リーダーシップ力を身に付ける。</li> <li>・「博士後期ライフイノベーションセミナー」等により、国際性を身に付ける。</li> <li>・基礎科目、専門科目等により、イノベーション力を身に付ける。</li> <li>・「ライフイノベーション博士後期演習」等により、専門知識を身に付ける。</li> <li>・中間発表会、国際学会発表等により、高度英語実践力を身に付ける。</li> </ul>
学修の方法・プロセス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病態機構に関する最新の研究動向に把握した上で、顕在化していない課題を発見し、課題解決のために適切な研究計画を立案・遂行する。さらに、指導教員らとの批判的な議論を通してライフイノベーション創出に繋がる研究へと展開する。</li> <li>・得られた研究成果は学術雑誌および国際学会等で発表し、英語力を向上させ、その過程において論理展開力を身に付ける。</li> <li>・基礎科目、大学院共通科目を受講することにより、ライフサイエンス分野に関する最新の研究動向を学ぶだけでなく、英語によるプレゼンテーション能力を向上させる。</li> <li>・インターンシップを行うことにより、分野外の研究者と協働して新たな知を創出する経験を通して、研究力を磨く。</li> </ul>
学修成果の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入学1年後に、指導教員と2名の副指導教員から構成される達成度評価委員会が、初期評価(達成度評価I)を行う。</li> <li>・入学1年6ヵ月後に行う中間発表会において、主査と3名の副査が、博士論文の作成に向けた研究の進捗状況に対する中間審査を行う。</li> <li>・修了予定の1年前に、指導教員と2名の副指導教員から構成される達成度評価委員会が、中間評価(達成度評価II)を行う。</li> <li>・修了予定の5ヵ月前に、指導教員と2名の副指導教員から構成される達成度評価委員会が、最終評価(達成度評価III)を行う。</li> <li>・修了予定の5ヵ月前に行う予備審査会において、主査と3名の副査が、博士論文に対する予備審査を行う。</li> <li>・修了予定の3ヵ月前に行う最終試験において、主査と3名の副査が、博士論文の内容に関する発表および質疑応答に基づき、学位審査を行う。</li> </ul>

アドミッション・ポリシー	
求める人材	病態機構分野におけるイノベーションの実現が期待される研究基礎力、その実現に必要な専門知識、国際社会において研究に関わるあらゆる活動を行うのに十分な英語の運用能力の修得に十分な素養、を持つ人材を求める。
入学者選抜方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・書類審査により、修士レベルの専門知識を有しているか(在籍課程での成績が優秀であるか)、研究背景・研究計画および研究成果の社会還元について英語で具体的に説明できる能力があるかを評価する。</li> <li>・英語能力試験により、本学位プログラムで研究活動を行うために必要な英語能力(CEFR 基準で B2 以上)を有しているかを評価する。</li> <li>・口述試験により、病態機構分野におけるイノベーションを実現するための意欲および必要な研究基礎力、英語で説明・議論できる能力があるかを評価する。</li> </ul>